

## (2) 東北



東北地域では、景気は持ち直しの動きがみられる。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きがみられる。
- ・ 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す( \_ は上方に変更、\_ は下方に変更)

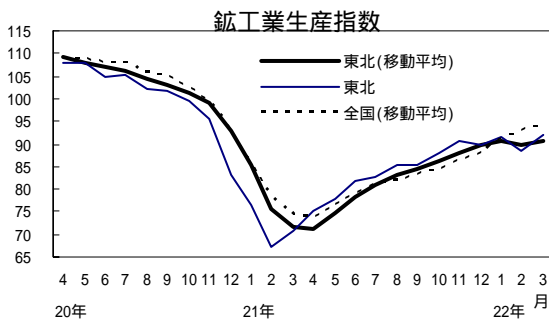
### 前回調査からの主要変更点

	前回(平成22年2月)	今回(平成22年5月)	
鉱工業生産	持ち直している	緩やかに持ち直している	
雇用情勢	厳しい状況にあるものの、下げ止まりつつある	厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる	

### 1. 生産及び企業動向

#### (1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

電子部品・デバイスは、海外向けにシリコンウエハ、サーミスタに動きはあるものの、在庫調整の影響から、おおむね横ばいとなっている。食料品・たばこは、菓子類、冷凍水産食品などで、減少している。一般機械は、半導体製造装置及び産業用ロボットなどで、輸出が好調であり、増加している。情報通信機械は、デスクトップ型パソコンが増加している。化学は、医薬品の在庫調整の影響から減少している。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		10~12 月期	1~3 月期	1~3 月期	1~3 月期
電子部品・デバイス	17.9	0.4	0.8	11.2	15.9
食料品・たばこ	11.8	0.1	5.7	4.4	1.3
一般機械	10.1	27.7	14.0	12.8	11.7
情報通信機械	9.6	5.6	9.4	3.2	16.0
化学	7.0	7.2	1.7	2.2	2.7
鉱工業	100.0	6.0	1.1	0.8	2.8

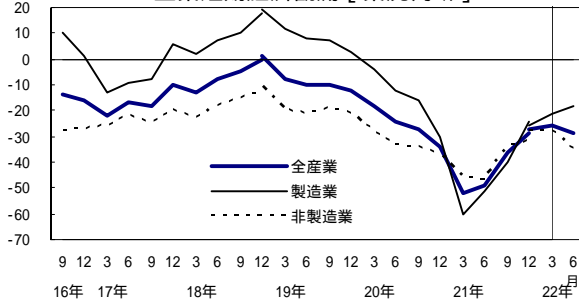
(備考) 1. 17年=100、季節調整値。東北の最新月は速報値。  
2. 全国及び東北の太線は後方3か月移動平均。

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。  
2. 1~3月期は速報値。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

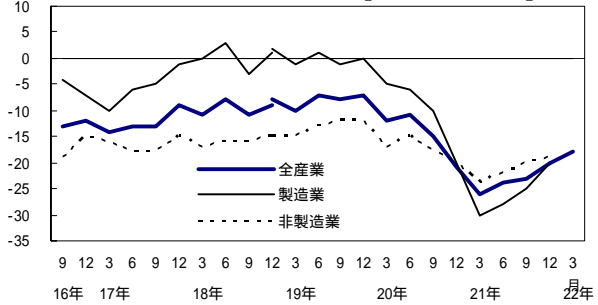
### 企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査

(%ポイント) 企業短期経済観測 [業況判断]



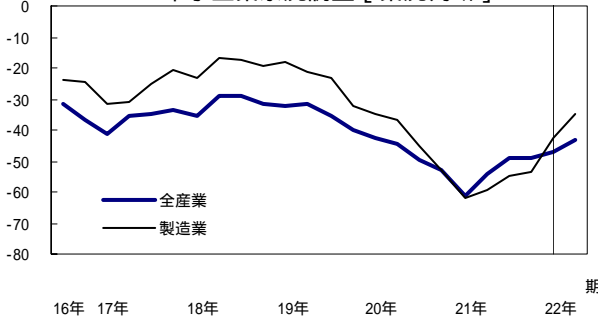
(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年6月は予測。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%ポイント) 企業短期経済観測 [資金繰り判断]



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。  
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。

(%) 中小企業景況調査 [業況判断]



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。

### 景気ウォッチャー調査(4月)[企業動向関連(現状)]

「住宅版エコポイントの効果もあり、リフォーム工事の受注が少しずつ出てきている(建設業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

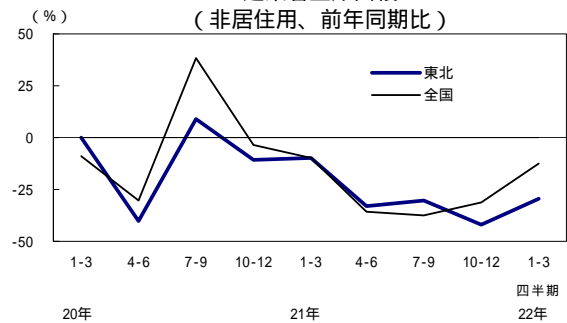
(3) 21年度の設備投資は前年度を大幅に下回る見込みとなっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(3月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績見込み	22年度見込
全産業	25.8 ( 0.6)	23.1
製造業	29.3 ( 4.2)	23.8
非製造業	19.2 ( 5.7)	22.0

(備考) ( )は前回(12月)調査比修正率。

建築着工床面積  
(非居住用、前年同期比)



(2) 東北

2. 需要の動向

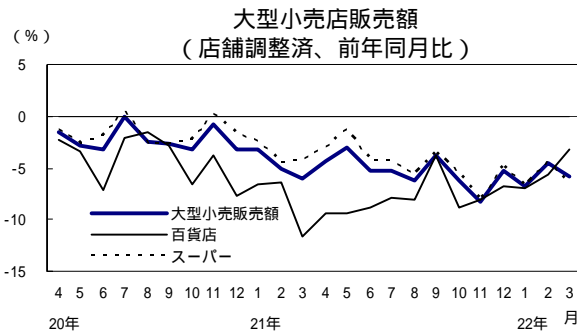
(1) 個人消費は持ち直しの動きがみられる。

大型小売店販売額

百貨店は、1月は、クリアランスセールを前倒した反動から主力の衣料品が全体的にふるわず、前年を下回った。2月は、春物衣料がふるわなかったものの、冬物衣料最終セールや紳士のスーツ等に動きがみられ、前年比の減少幅が縮小した。3月は、生鮮食品を中心に飲食料品に動きがみられ、催事の好調もあり、前年比の減少幅が縮小した。なお、東北百貨店協会によると、東北地区の4月の売上は前年同月比で5.5%減となっている。スーパーは加工食品等が堅調に推移したものの、精肉、鮮魚等が低調で前年を下回った。

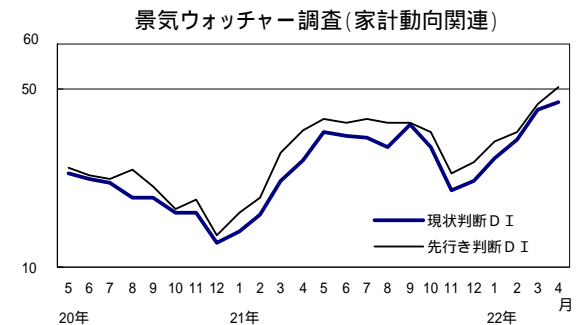
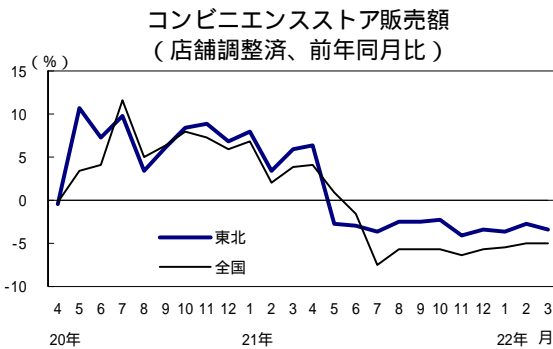
景気ウォッチャー調査(4月)[家計動向関連(現状)]

「エコカー減税や補助金制度が延長された影響で、好調な販売が続いている(乗用車販売店)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



	(前年同月比、%)			
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月
大型小売店	4.1	5.0	6.5	5.8
百貨店	9.2	6.7	7.8	5.3
スーパー	2.7	4.5	6.2	5.9
乗用車	15.3	6.1	18.5	21.5
景気ウォッチャー	37.9	39.3	31.3	39.4

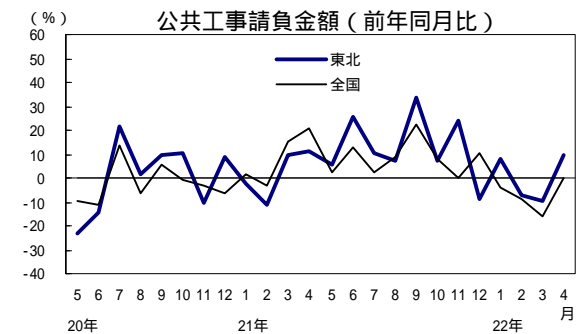
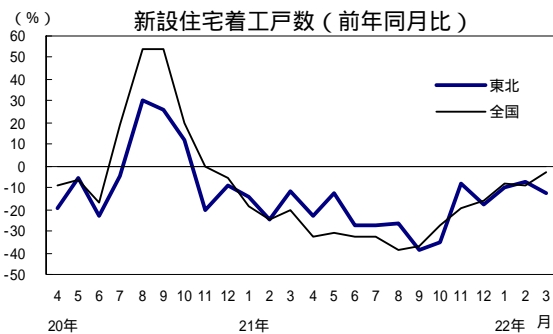
- (備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。  
 2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。  
 3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に減少している。

持家、貸家、分譲が前年を下回ったことから、大幅に減少している。

(3) 公共投資は21年度累計で見ると前年度を上回っている。

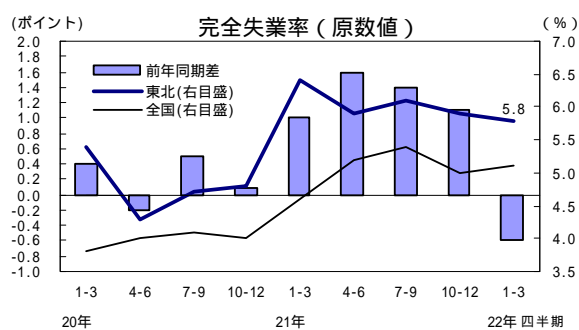
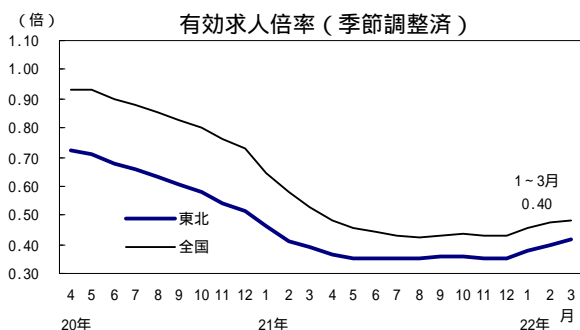


### 3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は厳しい状況にあるものの、持ち直しの動きがみられる。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (4月) [雇用関連 (現状)]

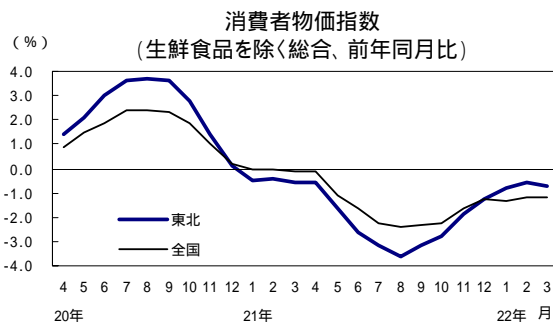
「雇用調整実施事業所数はやや増えているものの、休業延べ日数や対象者数は減少傾向にある (職業安定所)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数は前年比の下落幅が縮小している。

#### 企業倒産

	(件、億円、%)				
	21年4-6月	7-9月	10-12月	22年1-3月	22年4月
倒産件数	231	202	202	184	60
(前年比)	20.6	29.9	22.6	23.0	16.7
負債総額	776	288	448	415	109
(前年比)	21.1	73.6	38.6	43.9	58.3



景気ウォッチャー調査 (4月) [合計 (特徴的な判断理由)]

<現状>

・天候不順や降雪の影響で、観光スポットの開花が例年に比べて伸びているため、ランチ客や宿泊客の増加につながっている (都市型ホテル)。

<先行き>

・気温差の激しい日が続いて、果物の開花が遅れているため、収穫期への影響が懸念される (農林水産業)。

景気ウォッチャー調査  
(合計：家計動向関連+企業動向関連+雇用関連)

